

第51歩

西のゴールデンルート

インバウンド（訪日外国人）の多くが旅行する一連の日本の有名な観光地、東京、箱根、富士山、名古屋、京都、大阪などを巡る広域の観光周遊ルートのことをゴールデンルートと言います。初めて日本を訪れるインバウンド客であっても、日本を代表する観光都市をスポット的に気軽に体験できると人気があるのだそうです。主に、アジアからの観光客の周遊ルートとして使われることが多いようですが、アジア以外のヨーロッパやアメリカ、オーストラリアからのインバウンドを見ても、このゴールデンルート上にある都府県に滞在する人の数が飛び抜けて多いようです。

観光庁が取りまとめた2023年の統計では、ヨーロッパ、アメリカ、オーストラリアから来たインバウンドのうち、ゴールデンルートにある6都府県（東京都、静岡県、神奈川県、愛知県、京都府、大阪府）の宿泊客数は全体の79.4%にもなるそうです。一方で、大阪府より西の、兵庫県、中国地方、四国地方、沖縄県を除く九州地方の西日本17県に宿泊した人は、全て足しても5.8%にしかならないということです。東京、大阪間のゴールデンルートとそれ以外の地域では、圧倒的に差がついているのが分かります。しかも、滞在日数が長く、高付加価値旅行者が多いと言われるヨーロッパ、アメリカ、オーストラリアのインバウンドの滞在が西日本で極端に少ないことは、大きな経済効果を取り逃しています。

そこで設立されたのが「西のゴールデンルート・アライアンス」です。大阪・関西万博を前に、欧米豪の旅行者や高付加価値旅行者をメインターゲットに、産官それぞれの特徴を活かしながら一丸となって、万博などに訪れるインバウンドを大阪より西のエリアへ誘客しようというものです。去る5月17日に設立総会が行われ、提唱者の福岡市長が会長、神戸市長と広島県知事と私が副会長に就任することになりました。

設立総会時点で、47の自治体と多くの観光関連企業、団体も入った同盟組織。これまでにないスケールの大きな施策展開が期待されています。そして、その中心ルートとなるのは、九州と中国と四国をつなぐ瀬戸内海であると思っています。



新たなJAPANを開拓せよ。